

思います。

(♣嘱託医師面接：毎週水曜日 10 時～12 時 要予約)



グループ・セミナーのご案内



## 「9 年間を振り返って、学生の皆さんにお伝えしたいこと」

嘱託医師 工藤潤一郎

日本女子大学カウンセリングセンターの嘱託医師として勤務させて頂いてから約9年間で過ぎました。この間に百年館が完成し、その建設工事にともなってセンターは2度引越しをしました。センター長も2度交代されました。また、カウンセラー、事務職員の多くも勤務交代されました。このように様々なことが変わりましたが、時間が経つのは随分早く、振り返ればあっという間のことでした。私は週半日勤務のみの嘱託医師ですが、長く勤務させて頂き、考えてきたことはたくさんありました。その中で、学生の皆さんにお伝えしたいことが2つあります。

まず、カウンセリングセンターをもっと積極的に利用しても良いのではないかということです。相談に訪れる学生さんは9年前と比べてもかなり増えましたが、大学内で利用できる一施設としてももう少し気軽に来室される方が良いのではないかと思います。青年期の不安感や抑うつ感などにはお薬と同じかそれ以上にカウンセリングが大切であると思います。スタッフはとても丁寧に対応されています。また、センター内の待合室、面接室の居心地もかなり良くなりました。

もう一つは、日本女子大学の学生であることの誇りを今まで以上に持って頂きたいということです。このことは、センターでの相談内容からも、また、大学全体の雰囲気からも感じることで、本学の開学は1901年、桜楓会の設立はその2年後のことで、女子教育機関として最も厚い伝統を持っています。たまには成瀬記念館を訪問し、展示物を見ながら開学の理念と精神、また、その歩みを確認し、本学の学生であることの意義をよく考えて頂きたいと思えます。人生を生きていく上で支えは必要ですが、本学の学生であること、あったことはその大切な一つになるのではないのでしょうか。本学の卒業生の中には、開学の精神を引き継いで、地道な社会貢献を続けている先輩がたくさんいらっしゃることで、その方々が母校を誇りに思っていることを忘れないで頂きたいと

